

薬物治療学研究室

Pharmaceutical Therapy and Neuropharmacology

教 授	新田 淳美	Atsumi Nitta
准教授	宮本 嘉明	Yoshiaki Miyamoto
助 教	宇野 恭介	Kyousuke Uno
特命助教(前)	笹谷 晴恵	Harue Sasaya

◆ 原 著

- 1) Yan Y., Nitta A., Koseki T., Yamada K., and Nabeshima T. : Dissociable role of tumor necrosis factor alpha gene deletion in methamphetamine self-administration and cue-induced relapsing behavior in mice. *Psychopharmacology*, 221: 427-436, 2012.
- 2) Furukawa-Hibi Y., Nitta A., Fukumitsu H., Somiya H., Toriumi K., Furukawa S., Nabeshima T., and Yamada K. : Absence of SHATI/Nat8l reduces social interaction in mice. *Neurosci. Lett.*, 526: 79-84, 2012.
- 3) Song T., Hatano N., Sugimoto K., Horii M., Yamaguchi F., Tokuda M., Miyamoto Y., Kambe T., and Watanabe Y. : Nitric oxide prevents phosphorylation of neuronal nitric oxide synthase at serine1412 by inhibiting the Akt / PKB and CaM-K II signaling pathways. *Int. J. Mol. Med.*, 30: 15-20, 2012.
- 4) Mouri A., Sasaki A., Watanabe K., Sogawa C., Kitayama S., Mamiya T., Miyamoto Y., Yamada K., Noda Y., and Nabeshima T. : MAGE-D1 regulates expression of depression-like behavior through serotonin transporter ubiquitylation. *J. Neurosci.*, 32: 4562-4580, 2012.
- 5) 入江徹美, 新田淳美, 赤池昭紀 : 国立大学法人における模擬患者養成及び問題立脚型チュートリアル学習の現状. *薬学雑誌*, 132: 337-363, 2012.

◆ 学会報告

- 1) Nitta A., Ishikawa Y., Iegaki N., Muramatsu S., Nabeshima T., Furukawa-Hibi Y., Uno K., and Miyamoto Y. : Overexpression of shati in the nucleus accumbens affects the abnormal behavior induced by methamphetamine in mice. The 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology, 2012, 6, 3-7, Stockholm.
- 2) Nitta A., Muramatsu S., and Miyamoto Y. : Lower sensitivity to methamphetamine in accumbal dopamine D2 receptor knockdown mice by using AAV vector. The college of Problems of Drug Dependence, 2012, 6, 9-14, Palm Springs, CA.
- 3) Takaoka K.*, Uno K., Inagaki R., Nagakura M., Tamaji A., Ozaki N., Miyamoto Y., and Nitta A. : Involvement of Shati on depression-like behavior in the postpartum period in human and mice. The 11th Biennial Meeting of the Asian Pacific Society for Neurochemistry / The 55th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry, 2012, 9, 29 -10, 2, Kobe.
- 4) Sumi K.*, Miyamoto Y., Ishikawa Y., Iegaki N., Muramatsu S., Hibi Y., Nabeshima T., Uno K., and Nitta A. : The differences of the action of shati between the nucleus accumbens and dorsal striatum on the methamphetamine-induced addictive behaviors in mice. The 11th Biennial Meeting of the Asian Pacific Society for Neurochemistry / The 55th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry, 2012, 9, 29 -10, 2, Kobe.
- 5) 高山華奈子*, 宮本嘉明, 宇野恭介, 徐 承姫, 松村祥平, 和田淳子, 新田淳美 : 覚醒剤投与マウスの側坐核より見出された TMEM168 の細胞内局在と脳内分布. 日本薬理学会第 85 回年会, 2012, 3, 14-16, 京都.
- 6) 家垣典幸*, 宮本嘉明, 宇野恭介, 日比陽子, 鍋島俊隆, 新田淳美 : 遺伝子組み換えマウスを用いた新規分子 “Shati” の情動行動への影響. 日本薬理学会第 85 回年会, 2012, 3, 14-16, 京都.
- 7) 日比 (古川) 陽子, Tursum Alkam, 新田淳美, 松山明裕, 鈴木和彦, Nigel Greig, 永井 拓, 山田清文 : ブチルコリンエステラーゼ阻害剤のアミロイドベータ誘発性認知機能障害改善効果. 日本薬理学会第 85 回年会, 2012, 3, 14-16, 京都.
- 8) 新田淳美, 宇野恭介, 日比陽子, 鍋島俊隆, 宮本嘉明 : 統合失調症精神疾患関連の 3 つの新規遺伝子について. 統合失調症学会, 2012, 3, 16-17, 名古屋.

- 9) 赤池昭紀, 入江徹美, 新田淳美 : PBL チュートリアル教育プログラムの現状と取り組み. 第 132 回日本薬学会年会 (シンポジウム), 2012, 3, 28-31, 札幌.
- 10) 長倉美由紀*, 玉地亜衣, 宇野恭介, 宮本嘉明, 鍋島俊隆, 尾崎紀夫, 新田淳美 : 精神疾患関連遺伝子 shati の産じょく期うつ病診断マーカーとしての可能性. 第 132 回日本薬学会年会, 2012, 3, 28-31, 札幌.
- 11) 入江徹美, 赤池昭紀, 新田淳美 : 国立大学法人薬学部における PBL チュートリアル教育の現状と取り組み. 第 44 回日本医学教育学会大会, 2012, 7, 24-28, 東京.
- 12) 新田淳美, 宇野恭介, 宮本嘉明 : 新規薬物依存関連遺伝子の生理機能の解明および治療開発にむけての研究. 平成 24 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会 (シンポジウム), 2012, 9, 7-9, 札幌.
- 13) 家垣典幸*, 宮本嘉明, 宇野恭介, 日比陽子, 鍋島俊隆, 新田淳美 : マウスにおける Shati 過剰発現は社会行動およびメタンフェタミン反応性に影響する. 第 63 回日本薬理学会北部会, 2012, 9, 14, 新潟.
- 14) 新田淳美 : 薬物依存関連新規分子の生理機能解明について : 薬物依存の関与するタンパク性分子の発現と機能. 第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会 (シンポジウム), 2012, 10, 18-20, 宇都宮.
- 15) 石川雄大*, 宮本嘉明, 鷺見和之, 家垣典幸, 日比陽子, 村松慎一, 鍋島俊隆, 宇野恭介, 新田淳美 : シャチの側坐核特異的過剰発現は代謝型グルタミン酸受容体 3 を介してマウスにおけるメタンフェタミン誘発性ドパミン遊離量増加を抑制する. 第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会, 2012, 10, 18-20, 宇都宮.
- 16) 笹谷晴恵, 林 慧洋, 宮本嘉明, 宇野恭介, 手塚康弘, 門田重利, 新田淳美 : マウスうつ様行動に対する GDNF 産生促進作用を介した細辛の効果. 第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会, 2012, 10, 18-20, 宇都宮.
- 17) 齊鹿絵里子*, 宮本嘉明, 村松慎一, 宇野恭介, 新田淳美 : マウス側坐核における精神疾患関連分子 transmembrane protein 168 の過剰発現が行動に与える影響. 第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会, 2012, 10, 18-20, 宇都宮.
- 18) 家垣典幸*, 宮本嘉明, 宇野恭介, 日比陽子, 鍋島俊隆, 新田淳美 : Shati 過剰発現マウスにおける行動解析. 第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会, 2012, 10, 18-20, 宇都宮.
- 19) 宇野恭介, 長倉美由紀, 玉地亜衣, 鍋島俊隆, 尾崎紀夫, 宮本嘉明, 新田淳美 : 精神疾患患者の血清サンプルにおける新規分子 SHATI 濃度測定法の開発. 第 22 回日本臨床精神神経薬理学会・第 42 回日本神経精神薬理学会合同年会, 2012, 10, 18-20, 宇都宮.
- 20) 新田淳美, 石川雄大, 鷺見和之, 家垣典幸, 宇野恭介, 日比陽子, 村松慎一, 鍋島俊隆, 宮本嘉明 : マウス側坐核での Shati の過剰発現によるメタンフェタミンの毒性の増強は代謝型グルタミン酸受容体 3 によって調節されている. フォーラム 2012 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2012, 10, 25-26, 名古屋.
- 21) 毛利彰宏, 野田幸裕, 松本友里恵, 丹羽美苗, 新田淳美, 山田清文, 古川照栄, 鍋島俊隆 : 3, 4-Methylenedioxymethamphetamine (MDMA) による精神毒性発現における脳由来神経栄養因子 (BDNF) の関与. フォーラム 2012 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2012, 10, 25-26, 名古屋.
- 22) 和田淳子*, 田辺公一, 新田淳美, 大久保純, 池崎友明, 田中真衣, 村上 望, 北条英徳 : モルヒネ塩酸塩注射剤との混合によるオクトレオチド酢酸塩の安定性への影響. 第 22 回日本医療薬剤師学会, 2012, 10, 27-28, 新潟.
- 23) 大嶋耐之, 灘井雅行, 新田淳美 : 現場に求められる薬剤師像を, 現行の薬剤師教育は果たしているか? 第 22 回日本医療薬剤師学会 (ラウンドテーブル), 2012, 10, 27-28, 新潟.
- 24) 石川雄大*, 宮本嘉明, 鷺見和之, 家垣典幸, 日比陽子, 村松慎一, 鍋島俊隆, 宇野恭介, 新田淳美 : マウスにおける Shati/NAT81 のメタンフェタミン応答性作用メカニズムについて. 日本薬学会北陸支部第 124 回例会, 2012, 11, 18, 富山.

◆ その他

- 1) 宮本嘉明, 日比陽子, 家垣典幸, 石川雄大, 村松慎一, 鍋島俊隆, 宇野恭介, 新田淳美 : 覚せい剤精神病関連分子ピッコロおよびシャチの発現調節がマウス行動に及ぼす影響. 平成 23 年度名城大学学術フロンティア推進事業研究成果報告会, 2012, 2, 8, 名古屋.
- 2) 新田淳美 : 覚せい剤の怖さ ; どうして再び手を出すのか. 高岡市更生保護女性会講演会, 2012, 2, 24, 富山. (招待講演)
- 3) 新田淳美, 家垣典幸, 石川雄大, 宇野恭介, 日比陽子, 村松慎一, 鍋島俊隆, 宮本嘉明 : 乱用薬物に共通の治療

薬の開発ならびに新規標的遺伝子の検索. 厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業分担研究報告書），2012，3，9，名古屋.

- 4) 新田淳美：薬物中毒防止について. 平成 23 年度富山大学学生団体アルコール等講演会，2012，3，21，富山.
- 5) 新田淳美：6 年生実務実習へのお礼；いよいよ薬学部 6 年制の学生一期生が卒業します. 病薬会報，118：11-12，2012.
- 6) 家垣典幸，宮本嘉明，石川雄大，日比陽子，村松慎一，鍋島俊隆，新田淳美：（AsCNP2011 発表報告）新規分子 Shati の脳部位特異的過剰発現はマウスの情動行動に影響する. 日本神経薬理学雑誌，32：119-120，2012.
- 7) 齊鹿絵里子，宮本嘉明，日比陽子，村松慎一，鍋島俊隆，新田淳美：（AsCNP 発表報告）新規分子“shati”のジストニアモデル動物における役割. 日本神経薬理学雑誌，32：121-122，2012.
- 8) 新田淳美：6 年生実務実習 3 年目を迎えて—大学から地域への情報発信—. 病薬会報，119：24，2012.
- 9) 新田淳美：薬物中毒防止について. 平成 24 年度富山大学学生団体アルコール等講習会，2012，10，3，富山.
- 10) 新田淳美：薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂について. 病薬会報，120：24，2012.
- 11) 新田淳美：覚せい剤依存や精神疾患の発症と関係する 3 つの分子について. 薬事研究会主催 薬事講演会，2012，12，13，富山.（招待講演）
- 12) 新田淳美：覚せい剤の怖さ・・・なぜ，手を出すのか，やめられないのか. 平成 24 年度「薬物乱用防止教室」講習会，2012，12，18，富山.（招待講演）